

中央北部Aグループ  
 テーマ「表現・造形活動」  
 ～子ども達の自由な表現を支えるために～

本グループは、「表現・造形活動」と決め、各園の作品持ち寄りにより「子どもの絵の見方」「読み取り方」「素材・題材」などについて作品研究を進めていくことになった。

研究日にはそれぞれの園が作品を前に活動の様子の記事をおこなった。鑑賞した他園のメンバーより、「この絵を描いた子はどんな子ですか?」「素材は何ですか?」「こうすると、さらによかったのではないのでしょうか」「楽しそうですね」「うちの園でもやってみよう(やってみました)」など毎回様々な感想や意見があり、互いに刺激を受け次の実践活動へと繋がっていった。

「実践の背景」「内容」「考察」「課題」を通して各園がそれぞれのテーマのもと実践報告書を作成した。

また研究活動の一環として、参加者内で草木染め体験を行った。

<作品研究経過>

平成27年度 9月、10月、11月、1月(草木染め体験) 2月

平成28年度 5月、6月、7月、8月、10月、11月、1月



<各園の実践報告>

赤迫保育園	「五感を使って表現を楽しみながら、野菜に親しみ興味関心を持つ」(3歳児5歳児)
異年齢児でサラダバイキングを計画した。そこに、造形あそびを取り入れ、五感を使って体験し、表現(スタッピング、観察画、玉ねぎの皮での染色)することで野菜の興味・関心にも一段と深まるのではないかと考え、実践した。	



あゆみ保育園	「年齢や発達に応じた表現活動」(0歳児～5歳児)
園全体の取り組みとして実施している月2回のクッキングを通して、今回は「とうもろこしの皮むき」体験をもとに絵画だけにこだわらず、各クラスが年齢に合わせた取り組みを行い発表した。	



長崎北保育園	「絵具を使った製作と遊び」(2歳児)
<p>昨年度園舎の立替工事などがあり、絵の具を使った夏のあそびの経験できなかったことが心残りであった。そこで今年の夏は、様々な感覚的な遊びや製作の回数を増やし取り入れたいと考え毎月、絵の具を使ったダイナミックな製作や遊びに取り組んだ。</p>	



滑石保育園	「年齢や発達に応じた製作活動」(2歳児・5歳児)
<p>限られた保育の時間の中で、製作活動に対する導きが課題となっている。今回は2歳児と5歳児の実践を通して、年齢や発達に応じた子どもたちが楽しく製作に取り組み、経験を重ねるための製作活動の取り組みについて考えた。</p>	



ししの子保育園	「身近な素材を使った造形活動」(3歳～5歳児)
<p>自然物や季節の野菜に興味を示し、豊かに表現する力を引き出すために、戸外遊びで子どもたちが見つけてきた木の実や落ち葉、木の枝、また目にする野菜など身近なものを使って造形製作を行い実践した。</p>	



葉山保育園	「どんぐりを使った各年齢の造形活動」(1歳児～5歳児)
4歳児クラスの子どもたちが散歩に行った先で拾ってきたどんぐりを使って、各クラス自由に製作を行うことにした。一つのテーマから広がる製作の楽しさ、そして同じテーマに対する各年齢の関わり方の違いについて実践し研究した。	



虹ヶ丘まめの木保育園	「観察画・スイカ」(5歳児)
自由画を中心に絵画活動を楽しんでいた。ものを観察する力も少しずつ身につけてきたこともあり、今回、葉の観察画や野菜・果物の観察画に初めて取り組んだ。	



住吉保育園	「子どものイメージ、想像力をどう育てるのか。 保育活動で芽生える(広がる)子どもの描画の世界」
「芋ほり」「みかん狩」など自然との触れ合い体験がもたらす、子どもたちのイメージの芽生えや想像力の育ちに対する変化や、その重要性について実践を行った	



西浦上保育園	「年齢や発達に応じた表現」(3歳児・5歳児)
--------	------------------------

日々の生活の中で、自立面や社会性が少しずつ身につき、ごっこ遊びや集団遊びなどにも興味を示している3歳児クラスを対象に、全身を使って絵具の感触を味わうとともに、描いた作品を造形遊びへと展開させ、喜び、達成感、共同遊びへと繋げる研究を実践した。



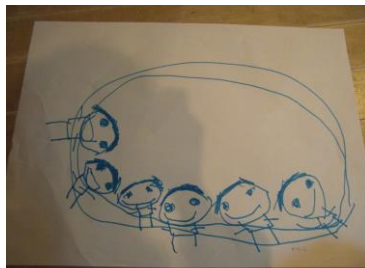
西山台保育園	「年齢や発達に応じた表現」(3歳児・5歳児)
--------	------------------------

積極的に行っている季節や行事に応じた製作活動に比べ、取り組みが少なかった絵画活動に対し、楽しく表現ができ、子どもたちがイメージを膨らませやすいよう題材に絵本を用いて実践を行った。



滑石センター保育園	「行事の経験を通しての描画」(3歳児～5歳児)
-----------	-------------------------

画を描くことの苦手意識をなくし子どもたちが積極的に描きたいと思えることへの関わりに課題をあて、園の行事(特に運動会)等自らの体験を通して描いた作品や活動の様子について研究した



ピッパラ保育園	「年齢や発達に応じた表現」(3歳児・5歳児)
園地内には、四季折々の花が咲き自然に恵まれ、日頃より植物に親しむ環境にある。今回は個人用の植木鉢それぞれにひまわりの種を蒔き、その成長を観察し描くことを実践研究とした	



<地区別研究に参加しての感想>

- ・今までは自園のやり方の中でしか工夫してこなかったが、他園の取り組みに触れることで、工夫の仕方、素材の使い方、導入の方法など、様々な発見があり興味深かった。また、自分たちが行った実践を他園の先生がたに見てもらうことで、自分の保育を深めるきっかけにもなった。
- ・今回は毎回各園で違った取り組みだったが、道具の使い方や各年齢に応じた言葉かけ、環境設定などに対して同じ内容(テーマ)を研究することも、保育に取り入れやすさ、研究内容が濃くなったのではないかと感じた。
- ・今回の研究で、子どもたちが楽しく造形活動に取り組むことの大切さや、上手くできなくても、子どもたちの作品は同じものではなく、それが「個性」ですばらしいことだと感じる事ができた。今後も、造形活動を通して子どもたちの発達やメッセージを汲みとり、これからの子どもたちへの保育をより豊かなものにしていきたいと思う

表現を育む人になる 「保育をひらく造形表現」 榎 英子 著

美しい夕暮れ空に出会ったとき、私たちは心に広がる想いを表したいという気持ちになります。もしそばにいる人が、自分を受け止めてくれる人であれば「きれいだね」と思わずつぶやき、「ほんとうだね」という言葉に心が満たされるでしょう。もしそばにいる人に心をひらくことができなければ、その想いは「表現」にならないままです。

子どもたちの豊かな表現を育む人は、「きれいだね」と伝えたいような人です。私たちはまず、心豊かな「受け手」として子どもたちのそばにいななければなりません。そしてときには言葉にならない感情やイメージを読み取り表現することで、子どもの表現の育ちを支えます。このように、子どもの傍らにいる大人は、安心して表せる「受け手」であるだけでなく、表現の「読み手」「表し手」としての感性もみがかなければなりません。私たちがまず学ばなければならないのは表現の技法ではなく、表現を引き出し、尊重し、共感し、その楽しさを共有できる心と身体の在り方です。

そのためには、表現に対するためらいや構えを克服することが第一歩です。自分の気持ちを率直におりなく表現しつつ他者の表現も受け入れるという態度は保育者の専門性の一つです。

子どもたちの表現の誕生に立ち会い、育む人になるために、まず、心をひらき、表現することからはじめましょう。そして、表現を楽しみながら「子ども心」を目覚めさせ、互いに受け止め合ひましょう。